

日本子どもの虐待防止学会 第31回学術集会ほっかいどう大会 COI開示

発表者名

木村 朱（宮城県涌谷町こども家庭センター）

演題発表に関連し、発表者らに開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

日本子ども虐待防止学会
第31回学術集会ほっかいどう大会
2025年11月15日(土) S1-17

こども家庭センターにおける 妊婦・こども・子育て家庭との 伴走の具体

自治体職員、民間職員の役割

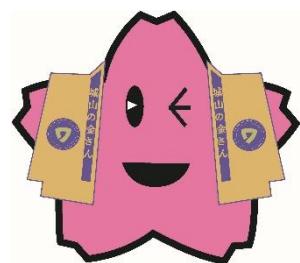
こども家庭センター支援事業アドバイザー
宮城県涌谷町子育て支援課 こども家庭センター
統括支援員（保健師）木村 朱

涌谷町の紹介



- ①面積：82.08 km²
- ②人口：14,159人
(令和7年4月1日現在)
- ③児童数：1,502人
※18歳未満の人口
(令和7年4月1日現在)
- ④出生数：81→60→35人
(平成30年度→令和3年度→6年度)
- ⑤要対協ケース数：58人
(令和7年4月1日現在)
- ⑥小学校3校 中学校1校

涌谷町キャラクター
「城山の金さん」



涌谷町町民医療福祉センター



こども家庭センター開設までの経緯

平成29年度

福祉課子育て支援室に
子ども家庭総合支援拠点を開設

平成30年度

子育て世代包括支援センター開設
検討会(自治体アセスメント)実施

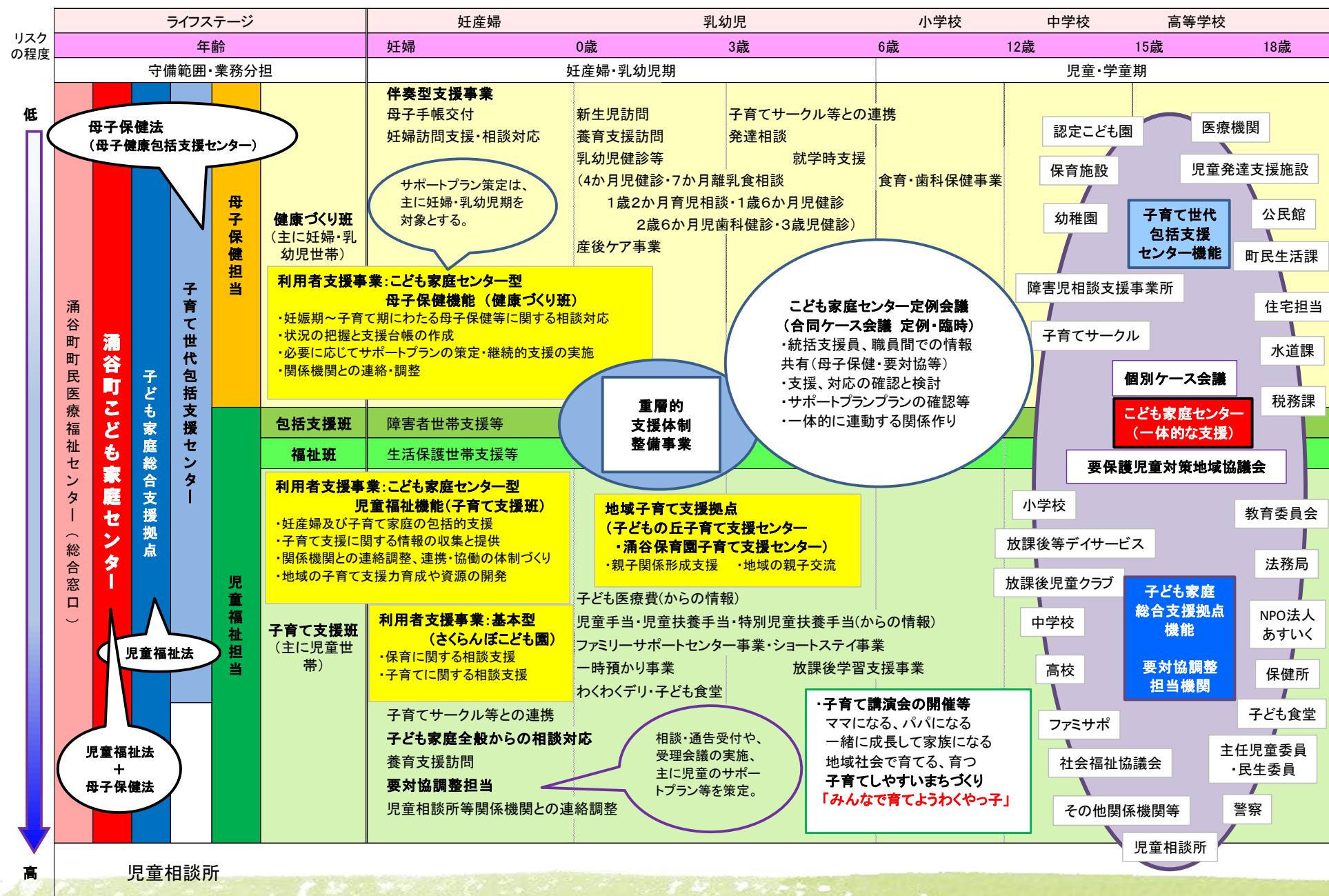
令和2年度

健康課健康づくり班に
子育て世代包括支援センターを開設

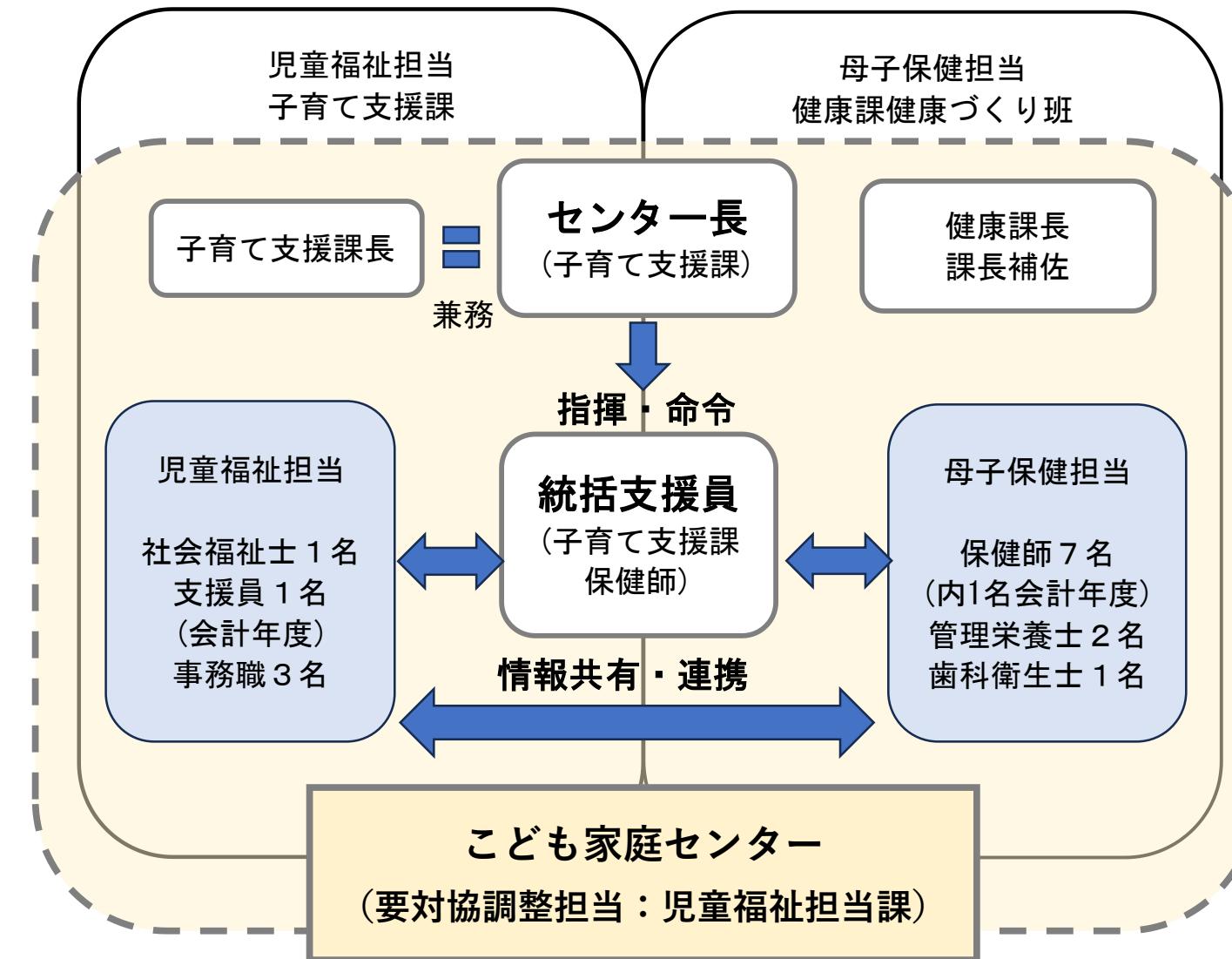
令和6年度

子育て支援課と健康課健康づくり班に
こども家庭センターを開設

涌谷町の子どもを守る体制：こども家庭センター「わくやっ子センター」事業等関係図



涌谷町こども家庭センター「わくやっ子センター」



皆さんの子育てを支える拠点
涌谷町こども家庭センター

わくやっ子センター

妊娠期から子育て期（学童期含む）にわたるさまざまな悩みや困り事に対応する相談支援の場所として開設されたのが、涌谷町こども家庭センター「わくやっ子センター」です。妊娠・出産・育児といった各段階におけるさまざまな悩みに対して、各分野のベテランも若手も専門職員が一緒に考え、歩み、支え、寄り添い続けます。

【問い合わせ先】子育て支援課子育て支援班 ☎25-7906
健康課健康づくり班 ☎25-7973

《わくやっ子センターのサポート概要》



保健師

妊娠期から子育て期までお母さんや子どものことだけではなく、家族のことなど、「こんなこと」と思わず気軽にご相談ください。子育てにかかる輪の中に、私たちも加わり、伴走しながら、大切なわくやっ子を育てていきましょう。



管理栄養士

悩みに合わせて食材を使って分かりやすく離乳食の進め方や食べさせ方をサポートします。大人の食事と同じ食材を使った取り分け食も忙しいお母さんにおすすめです。



子育てしやすい町は、人と人とのつながりが多い町

涌谷町こども家庭センターは、令和4年6月に成立した改正児童福祉法に基づいて、令和6年4月に整備されました。これまで別々だった児童福祉と母子保健の体制を一体化する役割を担っています。

近年、出生数は減っていく中、出産や子育てに困難を抱える人は増えています。日常生活の中で、子育てを楽しいと感じたり、子どもの成長を喜び合える環境がなければ、出生数は増えていかないと思います。

そのために私たちが心掛けていることは、妊婦さんや子育て世帯が、社会的・精神的に孤立しないよう、「つながる」ことです。相談できる人や環境に恵まれず、親御さんが孤立に追い込まれてしまう状況は、子どもへの不適切な対応を引き起こしかねません。そして、そのような幼少期の育ちの境遇が生涯の生きづらさとなり、連鎖していくともいわれています。

悲しい負の連鎖を断ち切るために、私たちのような専門職だけでなく、皆さんと共に温もりのある子育て支援の輪を広げ、子どもが子どもらしく育つよう、妊婦さんや子育て中の皆さんのが安心して子育てできる町づくりを進めるよう、「みんなで育てようわくやっ子」を合言葉に、一緒に取り組んでいきます。

子育て期

- 国で定められた乳幼児健康診査を行います。
- 涌谷町独自で離乳食・育児相談や歯科健康診査などを実施します。
- 希望者にすぐ相談（心理発達相談）に応じます。
- 養育支援訪問を行い、継続していきます。
- 小学校入学後の学童期以降の相談にも応じます。

妊娠前から子育て期にかけて 切れ目なく支援！

OG保健師

子育ての時期は過ぎてしまえばあっという間です。私たちも一緒に子どもたちの言葉にならない仕草や表情に目と耳を傾けていきます。



歯科衛生士

妊婦さんのお口の健康から、お子さんの歯の生え始め、生え換わりなど一人一人に合わせた歯磨きの仕方やおやつの与え方など何でも相談してください。



こども家庭センターの理念と具体

理念（方向性）

- センターは、**利用者の目線**で、支援の継続性と整合性を確認し、支援の効果が高まるよう、支援者と子育て家族との**信頼関係を醸成**する。
- センターによる「**包括的支援**」を通じて、妊産婦及び乳幼児並びにその保護者の**生活の質の改善・向上**や、胎児・乳幼児にとって**良好な生活環境の実施・維持**を図る。

（国際医療福祉大学成田看護学部 小稻 文）

具体（実践）

- 個人（直接支援：ソフト面：内的）
- 組織や体制、地域環境等（間接支援：ハード面：外的）

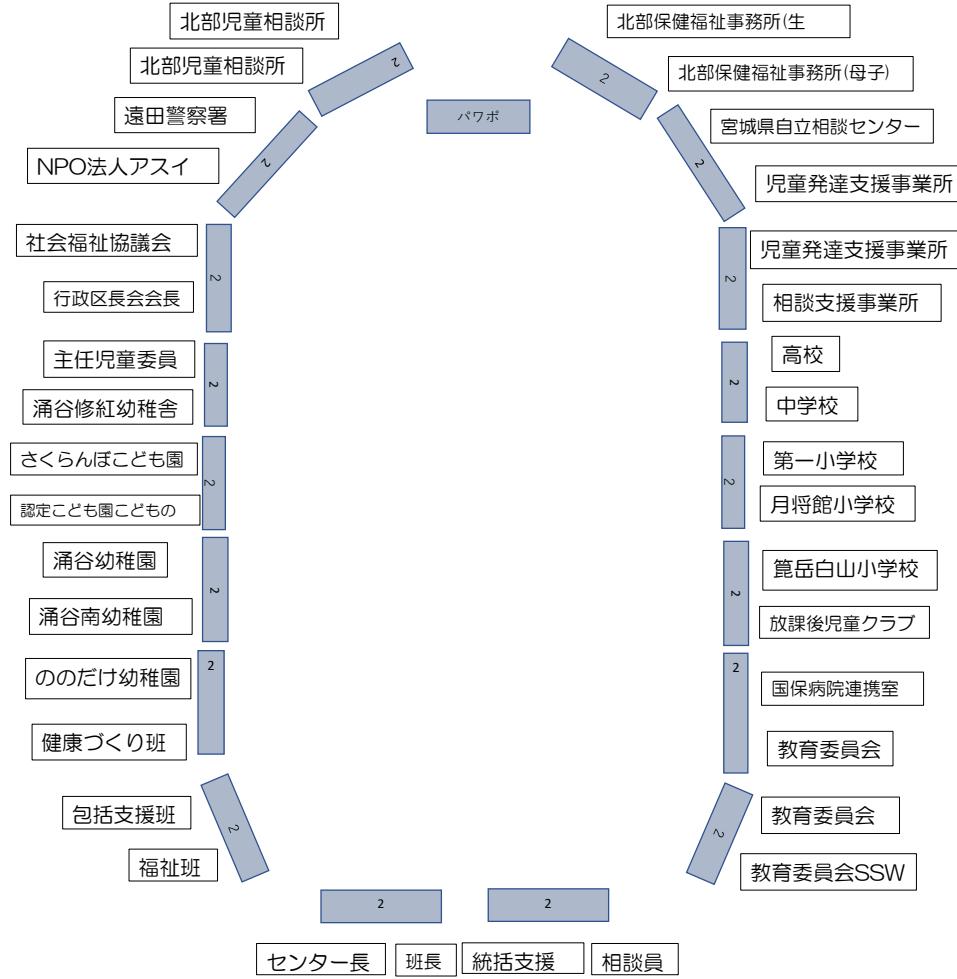
具体的な実践の深め方



要対協（地域ネットワーク）の活用

- ・児童相談所
- ・保健福祉事務所（母子障害・生活保護）
- ・警察署・法務局
- ・NPO法人（アスイク）
- ・社会福祉協議会
- ・基幹相談支援センター
- ・行政区長・主任児童委員
- ・高等学校・中学校・小学校
- ・放課後児童クラブ
- ・幼稚園・保育所・こども園
- ・児童発達支援事業所
- ・国保病院地域連携室
- ・教育委員会（教育専門監・SSW）
- ・健康課・福祉課等

30以上の所属から40名程出席



研修会の実施（学びと地域のチーム作り）



- 子どもの虐待の防止・治療は、地域レベルで計画し、実施するのが、もっとも効果が高い。
- 子どもたちに適切な養育環境や心理的なケアを提供し、社会が一丸となって彼らが子どもを虐待しない親に育つ仕組みを作ること。

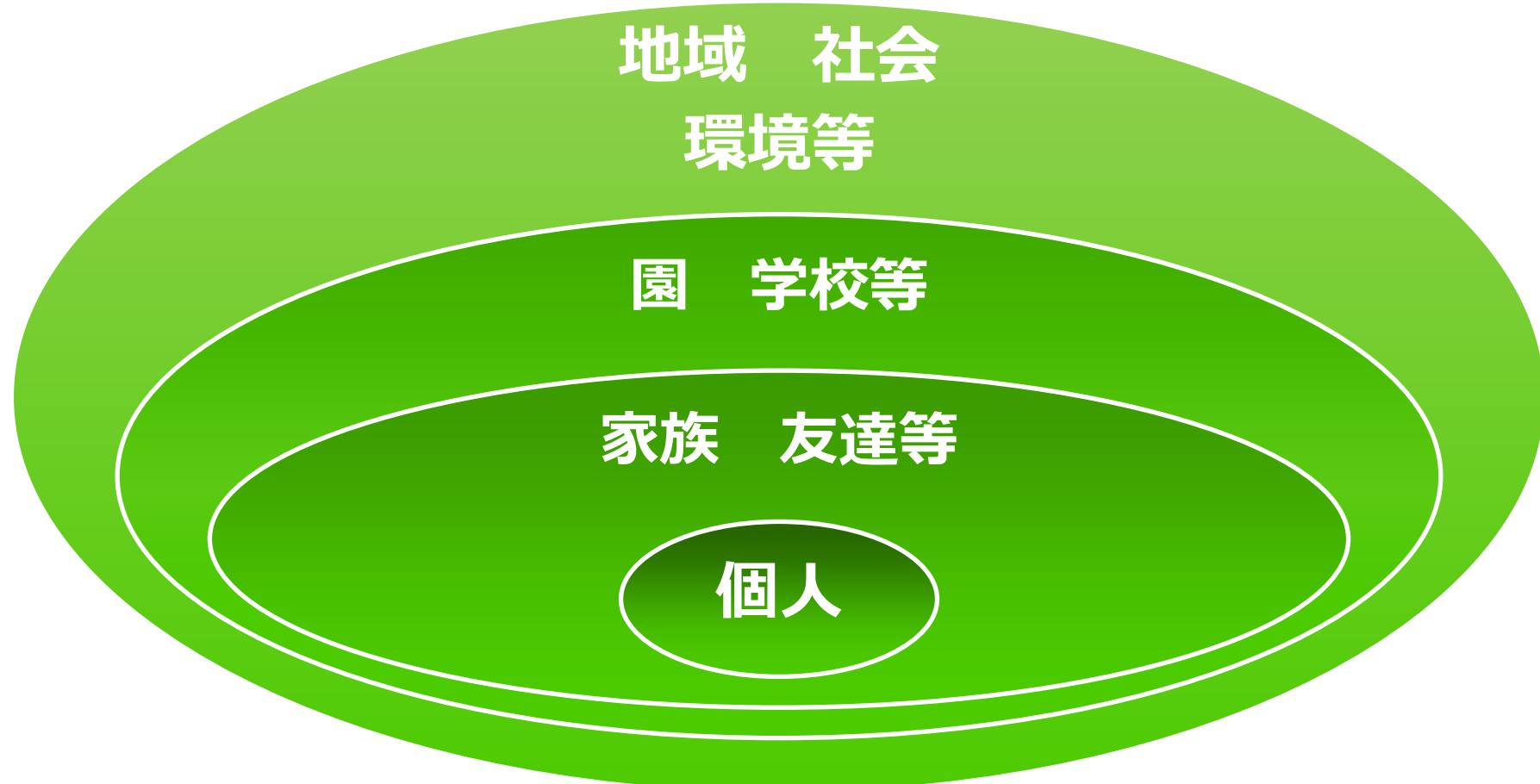
虐待された子ども -ザ・バタード・チャイルド- 等 リチャード・クルーグマン

こども家庭センターが拠り所に

- 所属機関だけで何とかしようと問題を抱えることが多かったが、**些細なことでも気になることがあれば相談できるようになった。**
- 子ども達は、家庭の生活環境を引きずって登校してくる。家庭養育と教育を切り離すことができなくなっている、このような**連携が大切だと感じる。**
- 涌谷町では支援の意識が高く、**チームで取り組めている**と感じる。

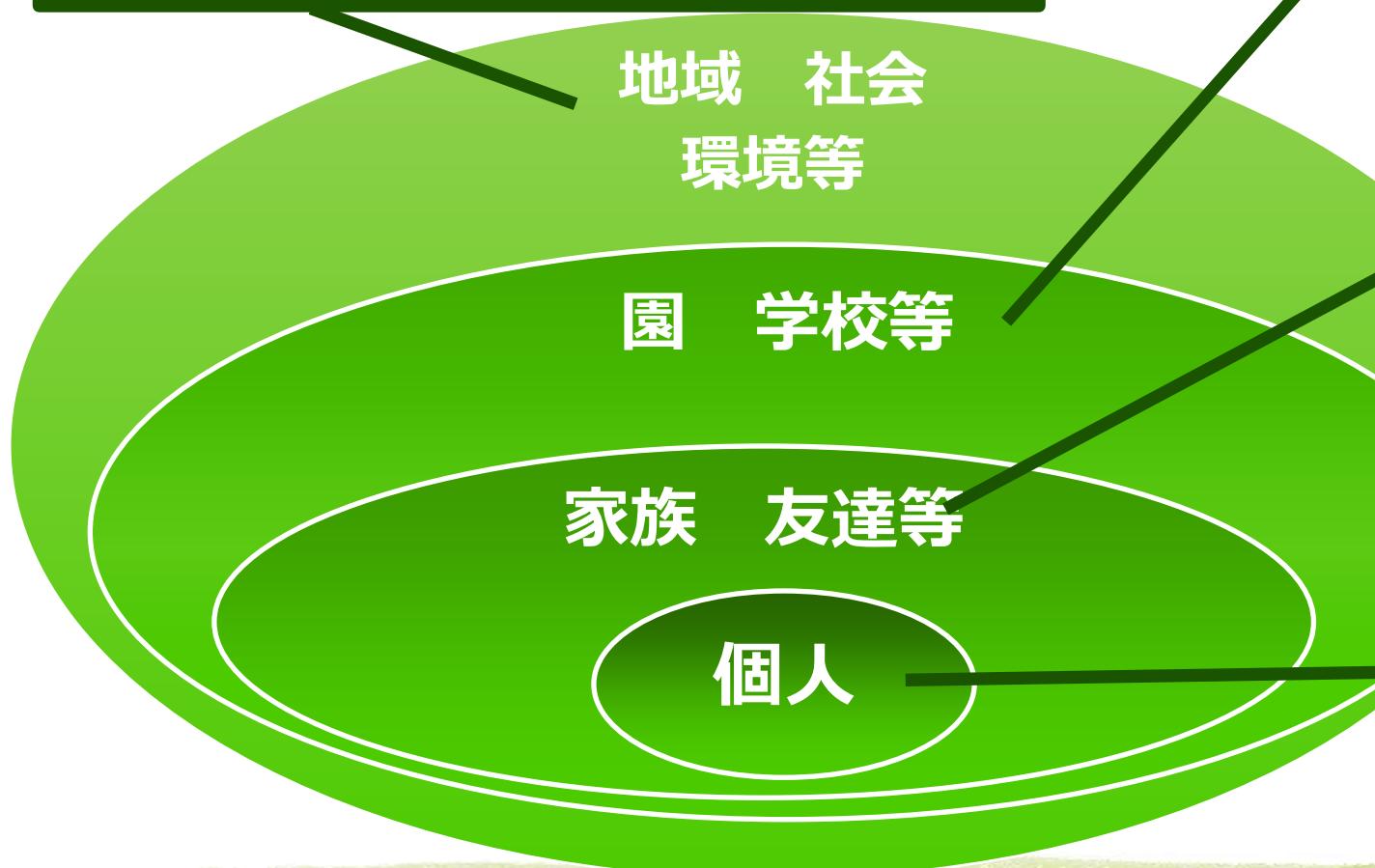
(保育所、幼稚園、小学校等関係機関からの言葉)

エコロジカルモデル



個人や家族だけの問題ではなく、地域の人や社会、環境との関係性の中に相互作用として生じている

④地域のネットワーク（要対協）
が共通の目標に向けて機能する
ように、こども家庭センターで
マネジメントする地域づくり！



③関係機関やサービス、人的・
社会資源を総動員して連携し、
支援する。個人を中心に、周り
がワンチームになって動く！

②家族や近所、友人関係を見る。
生活を文脈で捉えて面で繋ぎ、
誰が、どのように支援するかを
アセスメントして組み立てる！

①まずここ！個人を中心に
目の前の一人を大切にする。
SOSに気づける力が必要！
ねぎらい、共感する姿勢！

サポートプランの作成と手交（直接支援）

関係性の段階

- ①挨拶や雑談ができる（様子見）
- ②会話ができる（信用している）
- ③対話ができる（信頼している）
- ④一緒に考えられる（パートナーシップ）

支援アセスメント

- ①ジェノグラム（家族関係等）
- ②エコグラム（協力者・支援者）
- ③成育歴（生活史・価値観等）
- ④サインズオブセーフティ（ストレングス等）

涌谷町「みんなで育てようわくやっ子」アセスメントシート

子育て、子育ちと一緒に考えます！ 日付_____ 名前_____

ジェノグラム（家族図）・エコマップ（関係性）3世代まで見てみましょう

今、気になっていることや心配なこと等、どんなことがありますか

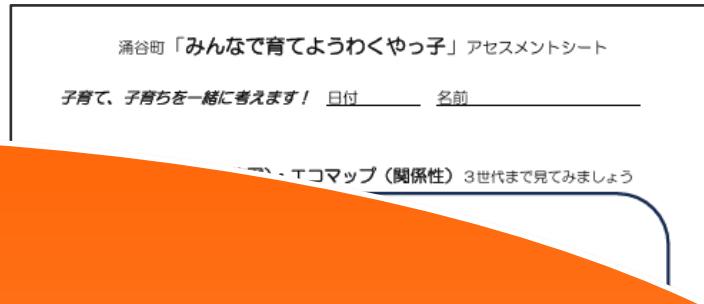
	〇〇ちゃん(こども)	〇〇さん(保護者)	支援者
からだ			
こころ			
成長発達			
保育所			
学校			
家族			
仕事			
お金			
近所			
その他			

サポートプランの作成と手交（直接支援）

関係性の段階

- # ①挨拶ができる(様子見)

**支援者に受け入れられる体験！
支援者側の、助言・指導ではない
共感の姿勢の継続が重要**



- ## ④ サイノヘン

自治体職員の悩み（アドバイザー事業）

- 好事例を次々に紹介されて苦しくなった。
- やらなければならないとわかっているが、具体的にどうしたらいいかわからないから辛い。
- 今やっていることがこれでいいのか誰も教えてくれなかつた。
自信がなく、ずっと不安だった。
- 突然、統括支援員に任命され、何をどうしたらいいかわからず、精神的に不安定になってしまった。

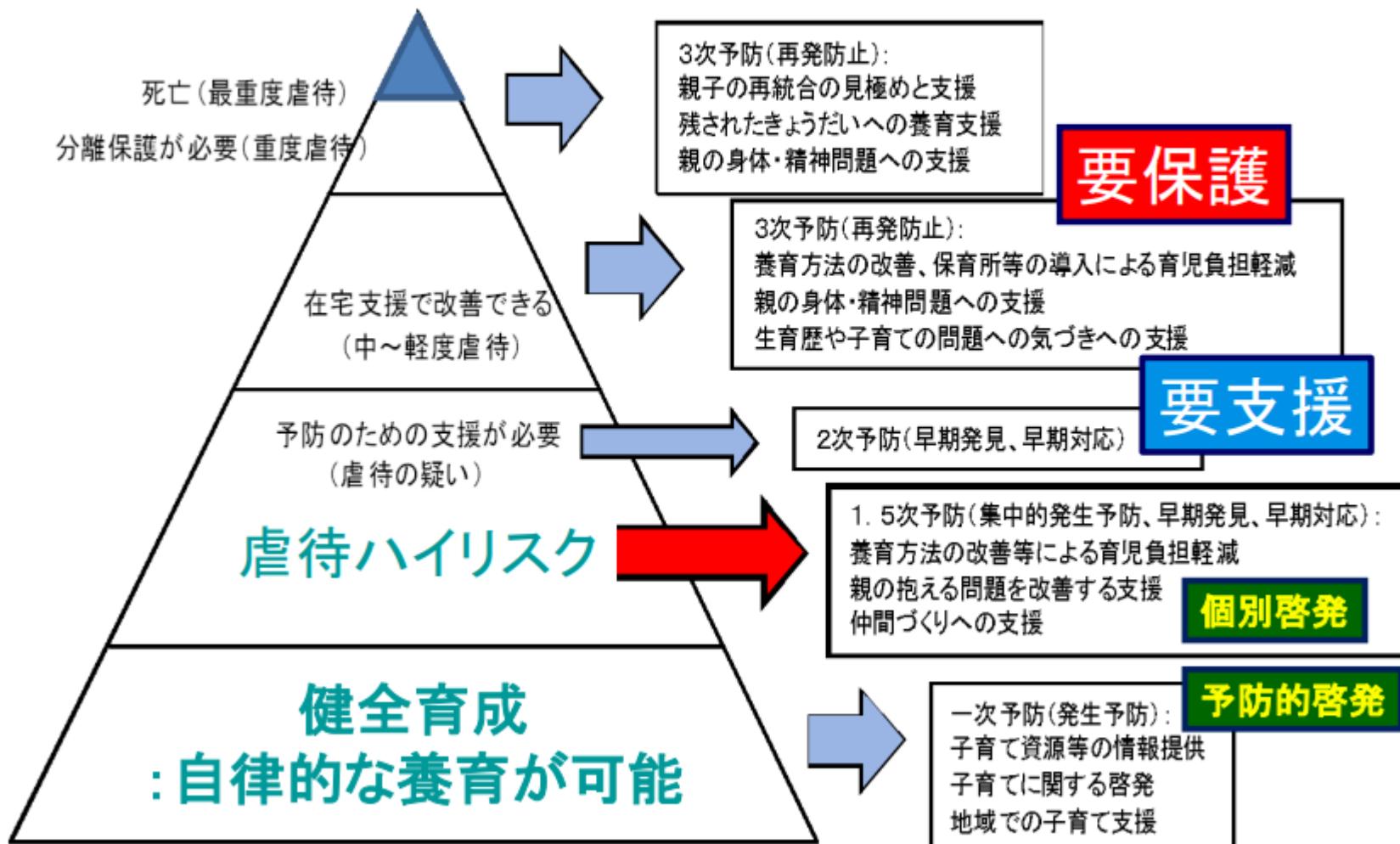
（アドバイザー事業で出会った全国のこども家庭センター職員の言葉）

自治体職員の変化（アドバイザー事業）

- 自分たちの自治体の現状を検討することの必要性を理解し、関係する職員で話し合うことができた。
- 何から取り組んだらいいか明確になった。
- 自分のやっていることがこれでいいとわかって自信が持てた。
- 自分たちは自分たちなりのペースで、少しずつ取り組んでいけばいいとわかって安心した。
- 相談できる人がいることが支えになった。

（アドバイザー事業で出会った全国のこども家庭センター職員の言葉）

虐待のステージと虐待予防・支援



佐藤拓代氏作成:大阪府立母子保健総合医療センター

支援者一人ひとりの「在り方」

- ・目の前のその人の、今ここ、をどう支援するか。
- ・その人の思いや背景をどれだけ想像しようとしているか。
- ・苦しみや辛さ、傷つきを、どれ程理解しようとしているか。
- ・教えて欲しい、力になりたいと、どれだけ思っているか。
- ・その人を取り囲む家族や生活を文脈で捉えてどうするか。
- ・何を見て、どのように支援をコーディネートするか。

本人主体のこども家庭センターとは

「話してよかったですって初めて思えた」

「もっと早く相談すればよかった」

「ここに来るとホッとするんだよね～」

「相談していい、頼っていいんだって、思えるようになった」

「生まれてきてよかったとは思えていないけど、今は楽しい」

「生きててよかったって初めて思えた」

- ・ 見ないふりや気づかないふり、もう無理と諦めるのではなく、ひるまず忍耐強く、一人ひとりに敬意をもって繋がり支援を継続する（伴走する）覚悟
- ・ 心理社会的に一人ではないと思える温もりを感じ、その人らしく生きる、一人ひとりの力を育んでいく支援
- ・ 目の前の一人、その家族、そして地域全体に対する連帯感を信じ続け、行動すること

本日のご縁を大切に…

